

安全作業手順書【支承補修工】

		見積り基準をした危険性の評価			
		重大性(B)	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)
可能性(A)	○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○○ (極めて小さい)	○△ (かなり小さい)	○× (中程度)	
	△ たまに起こる (1年に1回程度)	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)	
	× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	×× (極めて重大)	

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし (様子を見る)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路(豊田IC~春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC~飛島北IC,有松IC~上社JCT)
機器工具	高所作業車、脚立、 カッター、はさみ、清掃用具一式	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ、 切創作業用手袋、軍手、皮手袋、墜落制止用器具

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント			リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ)			リスクの再見積り		
			(～なので～になる)			(A)	(B)	リスク	(私達はどのように)			(A)	(B)	リスク

準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう	作業員全員で	手順を間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1	
		作業員の役割(運転手、助手)を決める	免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って	免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両シートを確認する	○	△	2	
		作業場所及び車線を確認する	上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		交通規制状況を確認する	必ず当日の規制簿を使用して	/	/	/	/	/	/	/	/	/
準備工	車両確認	ケーブル近接協議の内容を確認する	試掘を伴う場合は協議日を確認して	協議承認日以前に作業を行ってしまう	△	×	4	作業日と協議日を照合し、確認を行う	○	○	1	
		高所作業車の点検を行う	手順書に則り	小型移動式クレーン及び高所作業車作業手順書に則る								
		しらすだーの動作確認及び点検を行う	朝礼時に作業員全員で毎日動作確認をする	電池切れで緊急時、逃げるのが遅れる	△	×	4	毎日動作確認をし、電池が減ったら交換する	○	○	1	



本作業	出発準備	25.車両回送手順書に則る									
	出発										
	規制内進入										
	車両移動										
	停止										
	逸走防止										

本作業	使用機器等	車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指が挟まれて気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から 車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2	
	作業車両配置	高所作業車を据付け、足場の養生を行う	高所作業車手順書に則って	高所作業車手順書に則る								
	支承補修	高所作業車を操作し、補修箇所に移動する	全員の墜落制止用器具の使用を確認してから	高所作業車から誤って転落する	○	×	3	高所作業車乗車時は必ず墜落制止用器具を使用する	○	○	1	
		ワイヤーブラシ等で浮き錆を除去する	道具の落下に十分注意して	上方より道具を落下させる	△	△	3	落下防止ワイヤーを道具に付けて、上空監視員を付ける	○	○	1	
		プライマー塗布	プライマー塗布時	直接触り手がある	△	△	3	作業時は手袋を着用して行う	○	○	1	
	片付け	防錆テープを補修箇所に貼りつける	テープ切断時に	カッター等で手を切る	△	△	3	耐切創手袋を使用する。また、作業エリアの照度確保する	○	○	1	
		発生材や道具を片付ける	他の作業員等十分周囲に注意して	作業員同士や構造物との接触を起こす	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、 全体の動きを指示しながら片付けを行う	○	○	1	
		清掃道具で場内清掃を行う	側道側への飛散に十分気を付けて	掃き掃除やブロワー使用の際、走行車に気づかず 清掃物が飛散し、接触する	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、 警笛等を用いて合図をしながら清掃する	○	○	1	
	本作業	現場離脱	25.車両回送手順書に則る									
		帰着・駐車	25.車両回送手順書に則る									
後処理		運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/	
1人作業		原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地でKYを実施し、作業員同士目立つ範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。										

特記事項	パワーゲートを 使用した荷台積 み下ろし	パワーゲートを使い荷台にバルーン等を積み下ろし作業をする時は、積載物の落下またはゲート昇降による手の挟まれ、スライダバーの延伸による足挟まれに注意すること	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1
		②バルーン等のタイヤロックを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと									
	台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逸走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に仮置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1